

第三篇 戦役間弾薬ノ準備及兩砲兵工廠ノ擴張  
 彈薬ハ三十七年度動員計ニ規是セラレタル諸部  
 隊所用ノ数量ヲ準備シ尙ホ野戰兵器本廠用及  
 總豫備引充トシテ左記負數ヲ準備シアリタリ

左記

野戰兵器本廠用及總豫備彈薬並同原料表

彈薬種別	區	合	在庫品	製作中ノモノ (竣工豫定期)	以上ノ計
三年式銃	實包	包	五二九六七六。	二四七九〇二二。 (三十七年七月)	三〇、八六九八。
	實包材料	包	六三二七七九五	一九一〇、〇〇〇。 (三十七年十月)	二五四一七七九五
村田連發銃	實包	包	八四三七〇八	四三〇、〇〇〇。 (三十七年五月)	四三〇、〇〇〇。
村田銃	實包	包	八四三七〇八		一八四三七〇八
スナイドリ銃	實包	包	八六九一四七一		八六九一四七一
二十六年式拳銃	實包	包	三三九七二九	二〇九七八九 (三十七年一月)	五四九五二八

三九八



備 一本表、外演習用トシテ三十年式銃實包約千五百萬發三十一

年式速射砲用榴彈千九百十發榴霰彈二萬二百五十發アリ  
但複働信管ハ三十七年三月中ニ竣工見込

考

速射野山砲ヲ以テスル戰鬥ハ各國共ニ其經驗無ク彈藥

消費ニ對スル學說モ亦區々ニシテ未ダ準據スヘキモノ

アラズ故ニ總豫備彈藥ヲ充實スルコト、砲兵工廠

ノ製作力ヲ擴張スルコト等ハ共ニ砲兵課年末ノ希望

ナリシモ奈何セシ各種信管ノ制式決定ニ於テ

屢々故障ニ遭遇シ急ニ充實ヲ實行シ能ハ

サルト、一方經費ノ關係上工廠ノ擴張ニ意ヲ如ク

ナラズシテ在再遂ニ開戦ニ及ベリ

之ヨリ先キ日露兩國間ノ國際關係漸次切迫スルヤ

兵器行政當局者間ニ事變ニ急ニ應ズルカ爲メ兵



掃彈子發條用鋼帶

四八〇〇 磅

ニツケル

一八〇〇 磅

軟鋼管 各種

一〇〇 本

クローム鋼

六〇〇 磅

礬素鈹

三〇〇 磅

硝酸曹達

二五〇〇 磅

明治三十六年十二月、日露、關係益々切迫ス依テ兩院  
 兵工廠ニ命ジ徹夜作業ニ移ラシメタリ然ルニ此際ハ二  
 輪輜重車、車軸并ニ馭者臺改修問題起リ其工事  
 、進行如何ハ直ニ各隊、勤負ニ影響スルヲ以テ兩工廠  
 共ニ殆んど全カヲ之ニ傾注シ市井ノ工場ヲモ利用セサル  
 ハカラサルニ至リ為メニ彈丸類ノ製作ニ甚シク影響ス  
 ルニ至レリ

陸 二一〇〇

明治三十七年一月浦賀船渠株式會社ニ於テ若干ノ  
鑛造機ヲ賣却スルト聞ク乃々有及技術審査部長  
ヲシテ船渠會社ニ就キ其所有器械中彈丸、鑛  
造ニ適スルモノ、有無ヲ調査セシメ尚ホ兩砲兵工廠  
ヘモ勉メテ器械ノ購入増備ヲ計ラシメタリ  
三十七年二月第十二師團、出征ニ當リ規定以外ニ  
彈藥ヲ携行シ越ヘテ三月大本營兵站總監ヨリ  
ノ照會ニ依リ第二章ニ規定外豫備トシテ歩砲彈  
藥各一縱列令ノ彈藥ヲ支給セリ其他、出征部  
隊モ漸次携行彈藥增加、希望ヲ唱ヘ加フルニ各  
種ノ特設部隊ハ續々臨時ニ編成セラレトス此ニ於  
テカ兵器特ニ彈藥、準備ハ一層大速力ヲ以テ之ニ  
従事シ尚ホ彈藥製造機關、大擴張ヲ為サハルヘカ